



平成 29 年 12 月 1 日

各 位

会社名	株式会社ソフィアホールディングス
代表者名	代表取締役社長 新村 直樹
(コード番号)	6942)
問合せ先	経営企画室 浅野 茂雄
(TEL)	03-6265-3339)

過年度の決算短信等に関する誤謬の判明に関するお知らせ

この度、外部からの指摘により、当社が過去に発表した決算短信等について誤謬があり、これにより当社の過年度決算短信等の訂正が必要であることが判明いたしました。かかる事実関係等につきまして、取り急ぎ下記のとおりお知らせいたします。

株主・投資家及び市場関係者の皆様には、ご心配をおかけいたしますことを深くお詫び申し上げます。

記

1. 訂正の経緯及び理由

当社が発表した平成 26 年 3 月期決算短信において、当社連結子会社であるソフィアデジタル株式会社（以下「ソフィアデジタル」といいます。）が保有していたワンセグチューナーレコーダー ARecX6 の取引等について、以下の誤りが判明し、訂正が必要となりました。

- (1) 当該連結会計期間内に合計 326 台分を販売したと認識し売上計上いたしました。そのうちの 50 台分の取引については、ARecX6 の販売先とソフィアデジタル販売担当者との間で、ソフィアデジタルが、当該販売先が ARecX6 を第三者に再販売するまでは当該販売先から販売代金を徴収しない旨の口頭での合意が存在することが判明いたしました。このため、50 台分について収益を計上する要件を満たさず、売上計上が誤りであったこととなります。これに伴い、平成 26 年 3 月期に計上した当該 50 台分の売上高 500 千円、売上原価 490 千円を取り消します。
- (2) ARecX6 については、当該連結会計年度において販売計画 300 台を達成しなかった場合には同期末決算時に商品評価損を計上することとしておりました。上述のとおり、同連結会計年度における販売台数は 326 台であり、販売計画を達成していたと認識していたことから、商品評価損の計上をいたしませんでしたが、(1) の結果、正しい販売台数が 276 台となり、販売計画が未達となることから、商品評価損を計上すべきこととなります。これに伴い、上記 (1) の修正を反映させた後の ARecX6 の期末棚卸高 79,448 千円を商品評価損として平

成 26 年 3 月期の売上原価に計上する処理が必要になります。

なお、当社の会計監査人による訂正の監査手続きは現時点において未了ですので、訂正に伴う影響額は未定です。

また、ARecX6 については、平成 26 年 12 月 26 日に公表いたしました「当社連結子会社の事業譲渡及び特別損失計上のお知らせ」のとおり事業譲渡を行っており、平成 27 年 3 月期においてすでに全額商品評価損を計上しておりましたので、本件修正再表示が平成 28 年 3 月期以降の当社グループの財政状態及び経営成績に与える影響は軽微であります。

2. 訂正する有価証券報告書及び決算短信等

有価証券報告書 第 39 期 (自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 3 月 31 日)
第 40 期 (自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日)

四半期報告書 第 40 期第 1 四半期 (自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 6 月 30 日)
第 40 期第 2 四半期 (自 平成 26 年 7 月 1 日 至 平成 26 年 9 月 30 日)
第 40 期第 3 四半期 (自 平成 26 年 10 月 1 日 至 平成 26 年 12 月 31 日)

決算短信 平成 26 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)
平成 27 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

四半期決算短信 平成 27 年 3 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)
平成 27 年 3 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)
平成 27 年 3 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

3. 今後の対応

(1) 過年度決算の訂正

上記有価証券報告書等の訂正につきましては、所定の手続きを終了後、平成 30 年 1 月中旬までを目途に提出する予定です。

(2) 再発防止について

今後、平成 29 年 12 月上旬より開始し、平成 29 年 12 月中を目途に、社外取締役の鈴木規央氏を中心に社外役員による本件会計処理等の事実関係、原因の究明及び再発防止策の提言を目的とした内部調査を行い、速やかに再発防止のための体制を確立する所存であります。

以上